

# 事業報告書

令和2年度

社会福祉法人 神奈川県総合リハビリテーション事業団  
地域リハビリテーション支援センター  
(神奈川県リハビリテーション支援センター)

令和3年6月

はじめに

令和2年度神奈川県リハビリテーション支援センター事業報告書がまとまりましたのでご報告いたします。

私ども神奈川県リハビリテーション支援センターは、令和2年度まで神奈川県リハビリテーション協議会より指定を受けて活動してまいりましたが、令和3年度より神奈川県在宅医療推進協議会の中の地域リハビリテーション部会に所属することとなりました。活動は従来通りリハビリテーション専門研修、地域リハビリテーション支援活動及び高次脳機能障害関連事業の他に、神奈川県の委託事業としてリハビリテーション専門相談、地域リハビリテーション連携構築事業及び高次脳機能障害支援普及事業を進めてまいります。この実施状況は、来年度の事業報告書において報告させていただきます。

令和元年度は、風水害など自然災害により、私どもの事業活動が一時中断することがありました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症による地域社会全体の活動への影響が著しく、種々の生活の有り様が大きく変化しました。長期にわたり、人と人との直接の交流を大きく停滞させ、残念ながら計画したさまざまな事業が中止を余儀なくされました。当リハビリテーション支援センターも包括ケアシステムの構築を主題に地震や暴風雨水害などの広域災害を見据えて対面での事業計画を作成して来ましたが、今回の新型コロナウイルス感染症により対面形式による実施は困難となり、Zoom等のAI及び通信による手法に切り替え一部実施しました。

本年度も神奈川県における地域リハビリテーションの充実に努めてまいりますので、御支援の程よろしくお願い致します。

令和3年6月

神奈川県リハビリテーション支援センター所長 村井政夫

## 目 次

1. 地域リハビリテーション支援センターの設立経緯	1
2. 地域リハビリテーション	1
3. 地域リハビリテーション支援センターの支援基本方針	3
4. 地域リハビリテーション支援センターの組織	3

### 【リハビリテーション専門研修】

#### 【地域リハビリテーション支援に関連する活動】

1. リハビリテーション専門研修	5
2. 地域リハビリテーション支援関連活動	7
ア 「かながわ地域リハビリテーション支援連絡会」	7
イ 地域医療介護連携会議等への参加	7
ウ 保健福祉事務所への難病患者支援研修等の協力	7

### 【神奈川県リハビリテーション支援センター事業】

1. リハビリテーションの相談対応・情報提供	8
ア リハビリテーション専門相談	8
イ 情報提供	9
ウ かながわりハビリテーション・ケアフォーラム	9
資料1	10
2. リハビリテーション従事者等を対象とした研修	11
3. 地域リハビリテーションに関する調査等	11
ア リハビリテーション専門相談訪問後アンケートについて	11
資料2	12-14

### 【高次脳機能障害支援普及事業】

1. 拠点機関の支援内容の概要	15
2. 神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会	15
3. 相談支援	16
ア 個別相談支援の実績	16
イ 巡回相談	17
4. 研修会の開催	17
資料3・資料4・資料5	19-21
5. 神奈川県内の連携構築	22
ア 政令指定都市との連携構築	22
イ 自立支援協議会との連携	22
ウ 相談支援事業所との連携	23
エ 就労支援機関との連携	23
オ 当事者団体との連携	23
6. 事例検討会	24
7. 高次脳機能障害支援機関ネットワーク連絡会	25
8. 国との連携	25

ア	全国高次脳機能障害相談支援コーディネーター会議	25
イ	関東甲信越ブロック会議	26
9.	県内研修会への講師派遣	27
	<b>【職員の研究、研修実績】</b>	28

## 1. 地域リハビリテーション支援センターの設立経緯

神奈川県では、平成 13 年 3 月に、国の「地域リハビリテーション推進事業」に基づき「神奈川県リハビリテーション協議会」を設置し、介護保険制度施行以降の地域におけるリハビリテーションの実施状況、実施体制、利用者のニーズ等について、平成 13 年 7 月から 10 月にかけて、社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団に委託し、県内のリハビリテーション実施機関を対象に「神奈川県地域リハビリテーション実態調査」を行った。

この調査結果から明らかになった今後の課題と取り組みの方向性を踏まえ、地域における高齢者・障がい者等に対して、適切なりハビリテーションサービスの円滑な提供に向けて、関係機関の連携方策や全県的な立場で地域を支援する「神奈川県リハビリテーション支援センター」の指定等について協議を行い、地域におけるリハビリテーションの提供体制の整備に係る課題と今後の取り組みの方向性及び関係機関等の役割と連携方策のあり方を明らかにした「連携指針」を平成 14 年 5 月に策定した。

この「連携指針」に基づき、神奈川県は、平成 14 年 5 月 15 日に社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団を「神奈川県リハビリテーション支援センター」に指定した。

これを受け、当事業団では、平成 14 年 6 月に当該センターの業務を行う組織として新たに「地域支援センター」を設置し、神奈川県及び神奈川県リハビリテーション協議会と密接な連携を図りながら、地域におけるリハビリテーションの体制の充実を図るための業務を開始した。平成 28 年 4 月からは名称を「地域リハビリテーション支援センター」に変更した。

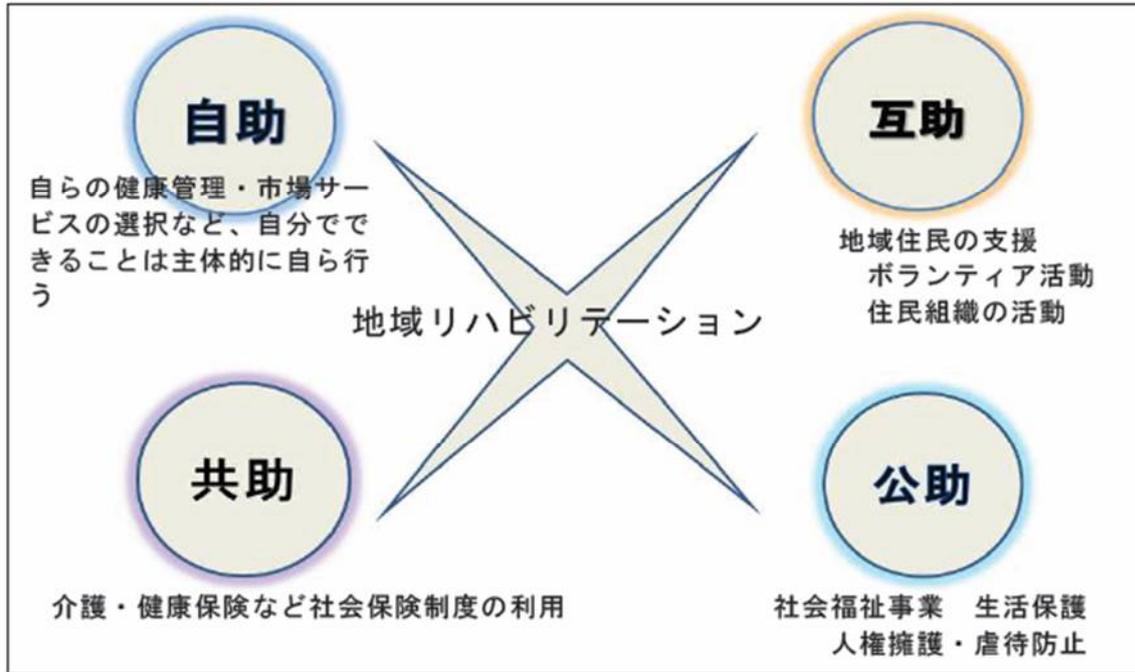
平成 29 年 9 月には「神奈川県地域リハビリテーション連携指針」が改定され、平成 30 年 4 月には「神奈川県保健医療計画」が改定された。この中で地域リハビリテーションの考え方や推進、関係各機関の役割などが示された。これによって神奈川県の委託事業である「神奈川県リハビリテーション支援センター」の役割が明確になった。

## 2. 地域リハビリテーション

地域リハビリテーションについて、平成 29 年 9 月に改定された「神奈川県リハビリテーション連携指針」の中で次のように述べている。

- 地域リハビリテーションとは、子供や成人・高齢者とその家族が、可能な限り住み慣れた地域で、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活に関わるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてを言います。
- また、地域リハビリテーションは、誰もがその地域社会で生活を続けていくために、ライフステージに合わせて本人あるいは当事者が自立をめざし、機能回復・維持、地域生活、就労などを支援する関係機関と住民も含めた地域社会がその人に必要な支援を行うことで成り立ちます。
- 加えて、地域リハビリテーションは、自身の主体的活動、地域住民の相互支援、社会保険制度の活用、公的支援制度の確立がかなめとなり、以下の概念により推進していきます。

(図 地域リハビリテーションの推進に向けた概念)



引用

神奈川県地域リハビリテーション連携指針(改定版)：神奈川県リハビリテーション協議会.平成 29 年 9 月

一方、国は高齢化社会に向けて 2025 年を目途に、重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制、すなわち地域包括ケアシステムの構築を目指している。また、地域包括ケアシステムは市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことを推奨している。

地域リハと地域包括ケアシステムともに、専門家の支援体制だけでなく、地域住民を含めた総合的な支援体制を作り出すことが必要とされ、最も難しく、成果が見えにくい活動であるとされている。また、地域リハと地域包括ケアシステムの具体的な活動は融合されてきているが、二つの活動の考え方が示されている。その概要を次頁の表に示す。

	地域リハビリテーション	地域包括ケア
生活圏域	・住み慣れたところ	・住み慣れた地域 ・小・中学校区レベル、人口1万人程度、30分でかけつけられる圏域
目標	・そこに住む人々とともに、一生安全に、いきいきと ・機能や活動能力の改善が困難な人々に対しても社会参加、生あるかぎり人間らしく	・安全 ・安心 ・健康
推進課題	1. 直接援助活動 ①障害の発生予防の推進 ②急性期～回復期～維持期リハの体制整備 2. 組織化活動(ネットワーク・連携活動の強化) ①円滑なサービス提供システムの構築 ②地域住民も含めた総合的な支援体制づくり 3. 教育啓発活動 ①地域住民へのリハに関する啓発  ※遅滞なく効率的に継続	①医療との連携強化 ②介護サービスの充実強化 ③予防の推進 ④見守り、配食、買い物等、多様な生活支援サービスの確保や権利擁護棟 ⑤高齢期になっても住み続けることのできるバリアフリーの高齢者住まいの整備  ※切れ目なく継続的かつ一体的に
支援体制	・医療や保健、福祉および生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織 ・地域住民も含めた総合的な支援	・医療と介護の専門職、高齢者本人や住民(ボランティア)等自助や互助を担うさまざまな人々

参考・引用文献

・澤村誠志、他(編)：地域リハビリテーション白書3. 三輪書店. PP2-13. 2013

### 3. 地域リハビリテーション支援センターの基本方針

地域リハビリテーション支援センターは、高齢者および障がい者のみならず県民一人一人が心豊かに、生き生きと、安心して、地域で生活を送ることができる社会の形成を目指します。

1. 人権を尊重し、コミュニケーションを大切にし、リハビリテーションの専門的な視点から支援を進めます。
2. 自立した生活を目指したリハビリテーションの普及・啓発を行います。
3. 身近な地域におけるリハビリテーションサービスを担う人材の養成や研修を行います。
4. 医療・介護・福祉・教育等の地域リハビリテーションネットワーク構築に努めます。

### 4. 地域リハビリテーション支援センターの組織

地域リハビリテーション支援センターは、地域における高齢者・障がい者等へ適切なリハビリテーションサービスを円滑に提供するための業務を全県的な立場で行っている。このため二つの支援室を設置している。地域支援室と高次脳機能障害支援室である。

#### ① 地域支援室

リハビリテーション専門職、福祉・介護関係職員、医療関係職員の人材育成研修、地域リハビリテーション支援に関連する活動を行っている。県委託事業

である神奈川県リハビリテーション支援センター事業も行っており、リハビリテーション情報の提供、リハビリテーション専門相談、人材育成、関係機関の連携を推進する業務等を行っている。

② 高次脳機能障害支援室

高次脳機能障害支援普及事業(国事業)の委託を受けており、支援拠点機関として支援コーディネーター3名と心理判定員1名が配置されている。高次脳機能障害者への相談支援、普及啓発活動、研修事業等を行っている。

地域リハビリテーション支援センター令和2年度組織体制

所長
副所長

地域支援室 (本務4名+兼務9名)		高次脳機能障害支援室 (兼務7名)	
本務		兼務	
理学療法士	1名	医師	1名
作業療法士	1名	ソーシャルワーカー	4名
ソーシャルワーカー	1名	心理判定員	1名
事務職員	1名	職業指導員	1名
兼務			
医師	1名		
理学療法士	2名		
作業療法士	1名		
言語聴覚士	1名		
リハビリテーション エンジニア	1名		
ソーシャルワーカー	1名		
生活支援員	1名		
事務職員	1名		
<b>計</b>	<b>13名</b>	<b>計</b>	<b>7名</b>

リハビリテーション専門研修  
地域リハビリテーション支援に関連する活動

## 1. リハビリテーション専門研修（表1・2）

医療・保健・福祉・介護専門職を対象とした研修で、二つの県委託事業を除き、令和2年度は、23回の研修を企画した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響によって8月末まで研修会の開催が困難となり中止となった。また、それ以降も感染拡大の予防のため、中止・研修形式の変更（オンライン）・時間短縮などの対応を余儀なくされた。内訳としては、対面研修1回（半日）・オンライン研修7回、計8回の開催となった。

受講者延数は、外部受講者 117 名、事業団職員 7 名で、総受講者延数は 124 名であった。研修アンケートでの4段階評価の平均は 3.8 点であった。

※表1に研修内容と受講者数、表2は講演名、講演者等を参照

表1 研修内容と受講者数等

No	研修名	開催日	定員	外部 受講者数	内部 受講者数	総受講 者延数	評価 (4点)	
1	視覚障害のある方への支援	9月1日(火)	20名	6	0	6	4	
2	PT・OTのための土曜教室	中止						
3	住宅改造・改修セミナー	9月19日(土)	30名	13	0	13	3.6	
4	からだにやさしい介助入門1	基礎編	中止					
5	からだにやさしい介助入門2	姿勢編						
6	からだにやさしい介助入門3	移動編						
7	からだにやさしい介助入門4	ADL編						
8	排泄ケアの知識と実践	中止						
9	摂食嚥下障害のリハビリテーションの実際	11月3日(火)	24名	17	5	22	3.9	
10	褥瘡予防セミナー	11月17日(火)	24名	44	1	45	3.7	
11	通信機器を利用した環境支援の実際	中止						
12	PT・OTのための臨床動作分析	中止						
13	下肢切断者に対するリハビリテーションの実際	中止						
14	脳血管障害のリハビリテーションの実際	中止						
15	車椅子シーティングの理論と実際	2月23日(火)	20名	37	1	38	3.6	
16	かながわりハビリテーション・ケアフォーラム	中止						
17	地域リハビリテーション推進研修	中止						
合計			118名	117名	7名	124名	3.8	

表 2 講演名、講演者等

番号	研修名	開催月日	講演内容	講師名	職種	所属	開催場所
1	視覚障害のある方への支援	9月1日 (火)	視覚リハビリテーション	矢部 健三	生活支援員	七沢自立支援ホーム	神奈川リハビリテーション事業団
			【実習】視覚障害者誘導法 (アイマスクで誘導体験)	内野 大介	生活支援員	七沢自立支援ホーム	
			【実習】日常場面での接し方	内記 郁	生活支援員	七沢自立支援ホーム	
			ロービジョンケア	久米川 浩一	医師	神奈川リハ病院	
			【実習】ロービジョン疑似体験	斉藤 奈緒子	視能訓練士	神奈川リハ病院	
			【実習】ロービジョン疑似体験	内野 大介	生活支援員	七沢自立支援ホーム	
			質疑応答	佐藤 伸行	生活支援員	七沢自立支援ホーム	
			質疑応答	矢部 健三	生活支援員	七沢自立支援ホーム	
			質疑応答	内野 大介	生活支援員	七沢自立支援ホーム	
2	住宅改造・改修セミナー	9月19日 (土)	リハビリテーションの視点からみた住宅改造・改修について	小泉 千秋	理学療法士	地域リハ支援センター	神奈川リハ病院
			事例を通して考える	清水 里美	作業療法士	地域リハ支援センター	
			住宅改修費用の助成について	小川 淳	ソーシャルワーカー	地域リハ支援センター	
3	摂食嚥下障害のリハビリテーションの実際	11月3日 (火)	食事姿勢の基礎知識と対応	小泉 千秋	理学療法士	地域リハ支援センター	神奈川リハ病院
			食事環境調整	清水 里美	作業療法士	地域リハ支援センター	
4	褥瘡予防セミナー	11月17日 (火)	褥瘡のトータルケア	長堀 エミ	看護師	神奈川リハ病院	神奈川リハ病院
			体圧の工学的評価	辻村 和見	リハエンジニア	神奈川リハ病院	
			車いす上の褥瘡予防	藤縄 光留	理学療法士	神奈川リハ病院	
			車いす上の褥瘡予防	井上 千愛	理学療法士	神奈川リハ病院	
5	車椅子シーティングの理論と実際	2月23日 (火)	車椅子シーティングに必要な基礎知識	辻村 和見	リハエンジニア	神奈川リハ病院	神奈川リハ病院
			車椅子作成に必要な身体寸法測定	森田 智之	理学療法士	七沢自立支援ホーム	
			身体寸法から車椅子の選択方法	森田 智之	理学療法士	七沢自立支援ホーム	
			車椅子の構造～移動について	松田 健太	リハエンジニア	神奈川リハ病院	
			車椅子の構造～移乗について	小泉 千秋	理学療法士	地域リハ支援センター	
車椅子姿勢調整～背張り調整	小泉 千秋	理学療法士	地域リハ支援センター				

## 2. 地域リハビリテーション支援関連活動

### ア 「かながわ地域リハビリテーション支援連絡会」政令市のリハセンターとの連絡会（表3）

平成24年度より横浜市総合リハビリテーションセンター、川崎市北部リハビリテーションセンター、れいんぼう川崎、川崎市中部リハビリテーションセンター、相模原市更生相談所と情報交換等を目的に連絡会を開催している。

令和2年度は、オンラインにて1回開催した。

表3 かながわ地域リハビリテーション支援連絡会

開催日	場所	テーマ
令和3年2月24日(水)	オンライン（Zoom）	コロナ禍に於ける活動状況報告

### イ 地域医療介護連携会議等への参加

- 1) 「神奈川県小児等在宅医療推進会議」 1回（オンライン）
- 2) 「自立支援協議会」（県、保健福祉圏域、市町村）
  - ・神奈川県障害者自立支援協議会 2回（オンライン）
  - ・神奈川県障害保健福祉圏域事業調整会議 1回（オンライン）

### ウ 保健福祉事務所への難病患者支援研修等の協力

県内の保健福祉事務所に対し難病支援に関する会議や研修会等に協力している。今年度は、3月に厚木市保健福祉事務所大和センターで難病リハビリ相談開催の予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のため中止となり、今年度協力実績はなかった。（令和元年度4カ所8回）

神奈川県リハビリテーション支援センター事業  
(県の委託事業)

# 1. リハビリテーションの相談対応・情報提供

## ア リハビリテーション専門相談（表 4・5・6・7・8・9）

リハビリテーション専門相談は、リハビリテーションを必要とする高齢者・障害者が住みなれた地域で自立した生活が送れるよう、当支援センターの専門スタッフが市町村及び地域のリハ関係機関と協働して総合相談・情報提供・技術支援などの支援活動を実施するものである。

目的は課題の解決のみならず、相談事例を通して医療・介護・福祉の連携を図ることであり、地域の状況に応じたリハシステムの構築を目指すこととなる。地域の支援者との協働は地域におけるリハに関する相談や調整を行うリハコーディネーターの人材育成にも関与するものである。相談支援の活動では制度間の枠を超えた多職種・多機関による包括的アプローチを行うことで、地域にあるリハ資源を積極的に活用し、自立支援の観点を基本にしたケアプランや個別支援計画の作成などに寄与する。

令和2年度の相談件数は、新規63件、延べ145件で相談内容等は下記のとおりであった。

表4 相談への対応方法（述べ人数）

リハ専門相談対応件数	件数
電話	100
訪問	36
来所 面接	4
メール・その他	5
合計(延べ)	145

表5 疾患・障害別相談件数

リハ専門障害別	件数	構成比
神経・筋疾患	49	34%
知的障害	30	21%
脊髄損傷	18	12%
脳血管障害	15	10%
後天性脳損傷(除くCVA)	7	5%
骨関節疾患	4	3%
脳性麻痺	2	1%
脊髄疾患	1	1%
内部疾患	0	0%
その他(切断・加齢等)	17	12%
不明	2	1%
合計(延べ)	145	100%

表6 相談依頼元 相談件数

リハ専門依頼元	件数	構成比
障害者施設	34	23%
訪問看護事業所	25	17%
居宅介護支援事業所	23	16%
本人家族	22	15%
障害者相談事業所	16	11%
高齢者施設	6	4%
市町村	4	3%
保健福祉事務所	3	2%
病院	3	2%
地域包括	2	1%
訪問介護事業所	1	1%
教育機関	1	1%
障害者更生相談所	0	0%
その他	5	3%
合計(延べ)	145	99%

表7 訪問・来所の主たる目的

訪問・来所の主たる目的	件数	構成比
補装具・福祉用具機器	22	55%
身体機能評価	8	20%
環境整備	3	8%
訓練プログラム指導	3	8%
介護指導	2	5%
医療	1	3%
支援内容検討	1	3%
ADL指導	0	0%
その他	0	0%
合計(実)	40	100%

表 8 障害者保健福祉圏域別件数

保健福祉圏域別相談件数	件数	構成比
県央	71	49%
湘南西部	26	18%
県西	17	12%
湘南東部	12	8%
横須賀・三浦	9	6%
県外	5	3%
横浜市	4	3%
川崎市	1	1%
相模原市	0	0%
合計(延べ)	145	100%

表 9 訪問・来所対応職員の職種

訪問・来所対応職員	件数	構成比
理学療法士	30	34%
作業療法士	28	31%
ケースワーカー	29	33%
リハ工エンジニア	2	2%
職業指導員・支援員	0	0%
医師	0	0%
合計(延べ)	89	100%

※構成比は、小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

## イ 情報提供

ホームページ上で県内のリハビリテーション関係機関情報、リハビリテーション専門研修の開催案内及び募集や、当支援センターで行っている事業の情報発信を目的に広報誌「地域リハビリテーション支援センターだより」を掲載し、広く情報の提供に努めている。今年度「地域リハビリテーション支援センターだより」はA3版両面で、研修や専門相談の事例紹介などを掲載した。令和2年度のホームページへのアクセス総数は37,395件であった。

## ウ かながわりハビリテーション・ケアフォーラム (表10) 資料1

今年度は、昨年度企画を10月以降に計画していた。しかし、新型コロナウイルス感染防止のため県と協議し昨年度に続き中止とした。

これをもって「かながわりハビリテーションフォーラム」を終了とした。

以下企画内容である。「安心した自分らしい暮らしの実現に向けて」をテーマに、4人の講師をお迎えし、実践的な講話をお願いしていた。内容は、地域包括ケアに関するもので、自助、互助、共助、公助の機能が充実していくこと、地域住民自身が主役であり、高齢者や障害を持たれた方も地域社会の一員として自助に努めなくてはならないことなど、リハビリテーション医療や福祉に限らず、地域社会が住民を巻き込んで包括的に取り組むことが、地域リハビリテーションを進める力となると考え企画した。表10は、企画していた講演内容である。資料1は昨年度作成したポスターである。

表 10 かながわりハビリテーション・ケアフォーラムの講演内容

研修名	講演内容	講師名	職種	所属
かながわりハビリテーション・ケアフォーラム	地域包括社会とリハビリテーションの役割 ～厚木市の取り組みを通して～	野村 直樹	医師	社会医療法人 社団三恩会
	地域を一つの大きな家族に	菅原 健介	理学療法士	(株)ぐるんどびー
	素敵な街を目指してご縁が繋ぐ地域の輪	前畑 竜郎	作業療法士	医療法人慈和会指定障害福祉サービス事業所サンライズ
	自分でできないことが人をつないでいく	内海 光雄	当事者	非営利活動法人きせき

## 第16回 かながわりハビリテーション・ケアフォーラム（市民公開講座）

# 安心した 自分らしい暮らしの 実現に向けて

～ リハビリテーションを地域生活に活かそう～

参加費  
**無料**

日時 令和 **2**年 **2**月 **22**日（土）  
13:00～16:30（受付:12:00～）

会場 **情文ホール**

（横浜市中区日本大通11 横浜情報文化センター 6F）

講演1

13:10～14:00  
野村 直樹氏

東名厚木病院 医師  
厚木市地域包括ケア推進会議会長  
社会医療法人社団三思会理事長



地域包括社会と  
リハビリテーションの役割  
～厚木市の  
取り組みを通して～

厚木市での取り組みを通して、  
地域包括ケアを推進するに  
あたってのリハビリテーション  
の役割について提言。

講演2

14:10～14:50  
菅原 健介氏

株式会社ぐるんとびー 代表  
理学療法士



地域を一つの  
大きな家族に

地域リハビリテーションへの思いや課題、  
希望、地域づくりの大切さと、自身の  
藤沢市での取り組みを紹介。

講演3

14:50～15:30  
前畑 竜郎氏

鹿児島県伊佐市大口病院 作業療法士  
NPO法人トータルケアネットワーク理事



素敵な街を目指して  
ご縁が繋ぐ地域の輪

鹿児島県伊佐市で、ピザ釜をアイテムに  
実践している地域活動を通してみえた、  
リハビリテーションの多様性・  
可能性について紹介。

講演4

15:50～16:10  
内海 光雄氏

非営利活動法人きせき理事長  
当事者



自分でできないことが  
人をつないでいく

当事者の立場から、自身の体験  
を通して、現状の課題と住み  
やすい街に求められる  
ものを提言。

展示コーナー

- ◆神奈川県理学療法士会
- ◆神奈川県作業療法士会
- ◆神奈川県言語聴覚士会
- ◆神奈川県総合リハビリテーションセンター  
リハビリテーション工学科

12:00～13:00  
15:30～15:50

会場の皆さんと情報を共有し、それぞれの立場で行う地域づく  
り、地域生活について一緒に考えてみましょう。

主 催：神奈川県リハビリテーション支援センター  
共 催：神奈川県、公益社団法人神奈川県医師会、一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会、公益社団法人神奈川県理学療法士会、  
一般社団法人神奈川県作業療法士会、公益社団法人神奈川県病院協会、神奈川県言語聴覚士会  
後 援：公益社団法人神奈川県看護協会、社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

## 2. リハビリテーション従事者等を対象とした研修

新型コロナウイルス感染防止のため中止とした。

## 3. 地域リハビリテーションに関する調査等

### ア リハビリテーション専門相談訪問後アンケートについて 資料 2

リハビリテーション専門相談（以下、リハ専門相談）アンケート調査は、訪問による支援終了から4ヶ月後を目安として、リハ専門相談での訪問の有効性について確認している。アンケート内容は、以下に示す項目である。

- 1) リハ専門相談のことを知ったきっかけ
- 2) 相談から訪問当日までの日程調整
- 3) 訪問回数（頻度）
- 4) 訪問はその後の支援に役立ったか
- 5) 訪問した利用者は満足されたか
- 6) リハ専門相談は必要か
- 7) その後の状況、またはリハ専門相談により、効果があった具体的内容について
- 8) その他の自由記載、であった。

調査機関：令和2年4月1日～年3月31日

配布数 24 件

回収数 22 件

回収率 91.7%

#### <概要>

リハ専門相談のアンケート調査は、訪問による支援終了から4ヶ月後を目安として、リハ専門相談での訪問の有効性について確認している。令和2年度は配布数24件、回収数22件、回収率は91.7%であった。リハ専門相談を知ったきっかけは、関係機関、関連職種からの情報提供等（14件）、パンフレット（5件）、ホームページ（1件）当センター主催の研修会（1件）、市町村など実施機関の窓口（1件）であった。日程調整の迅速性は3.73点/4、訪問頻度の適切性は3.65点/4、支援への有効性は3.73点/4、当事者の満足度は3.55点/4、リハ専門相談の必要性は3.86点/4だった。また、訪問の具体的な効果は、変化なし（0件）、良好な変化あり（4件）、支援上役立った（11件）、介護負担軽減につながった（1件）、本人や家族の理解や納得・安心につながった（3件）、であった。

**資料 2****リハビリテーション専門相談訪問後アンケートについて****1) リハビリテーション専門相談のことを知ったきっかけ**

- |                    |     |
|--------------------|-----|
| ①地域リハ支援センターのホームページ | 1件  |
| ②地域リハ支援センター主催の研修会  | 1件  |
| ③市区町村など実施機関の窓口     | 1件  |
| ④支援センターのパンフレット     | 5件  |
| ⑤その他               | 14件 |

(関連職種等からの情報提供があった11件・以前から相談や支援の連携があった3件)

**2) 相談から訪問当日までの日程調整は(平均3.7/4点)**

- |         |     |
|---------|-----|
| ①迅速であった | 16件 |
| ②普通     | 6件  |
| ③遅かった   | 0件  |
| ④遅すぎる   | 0件  |

**3) 訪問回数(頻度)は(平均3.6/4点)**

- |            |     |
|------------|-----|
| ①適切であった    | 13件 |
| ②やや適切であった  | 7件  |
| ③やや不適切であった | 0件  |
| ④不適切であった   | 0件  |

(未回答2)

**4) 訪問はその後の支援に役立ちましたか(平均3.7/4点)**

- |              |     |
|--------------|-----|
| ①役に立った       | 18件 |
| ②やや役に立った     | 2件  |
| ③あまり役に立たなかった | 2件  |
| ④全く役に立たなかった  | 0件  |

**5) 訪問した利用者は満足されましたか(平均3.5/4点)**

- |            |     |
|------------|-----|
| ①満足されていた   | 12件 |
| ②やや満足されていた | 6件  |
| ③やや不満であった  | 4件  |
| ④不満であった    | 0件  |

**6) その後の状況、またはリハ専門相談により、効果があった具体的内容を教えてください。**

- |                                     |     |
|-------------------------------------|-----|
| ①変化なし                               | 0件  |
| ②訪問後に病状が進行したため提案された支援<br>が適用できなくなった | 0件  |
| ③良好な変化あり                            | 4件  |
| ④支援上役立った                            | 11件 |
| ⑤介護負担軽減になった                         | 1件  |
| ⑥本人や家族の理解や納得・安心につながった               | 3件  |

(未回答3件)

- アドバイスを受け園内受診し、医師の同意を得て12月から週1回の在宅介護マッサージをうけることになった。(施設職員)
- 車いす座位一世を安定するための調整方法を教えていただき、いままで以上に意識するようになった。本人の状態が変わったため、姿勢が崩れやすくなってきたがその都度調整している。(施設職員)
- スライディングシートやリフターを利用することで支援者の負担が軽減された。身障の方の経験値が少なく、新しい方策や適切な介助手順が深まりにくい傾向にあります。リフターやシートの導入で支援者の負担軽減だけではなく(腰痛などのトラブル)ご本人の負担も減ったように感じています。(施設職員)
- 体を動かすことに前向きに取り組む方が増えた。立ち上がりの見守りの際の声掛け等、職員に統一した対応を伝えることができた。(ケアマネジャー)
- スイッチ(コールボタン)を軽い力で押すことができるようになり、ご本人にとってもストレスがなくご家族を呼ぶことが可能になりました。ありがとうございました。(理学療法士)
- 見積もりをだしていただきそれを踏まえてどのような形で住宅の改修を行うのか検討していくことになった。(相談支援事業所)
- ベッドリフター移乗に関わるスリングシートの見直し評価をしていただきました。ご本人の負担が少なく車いす乗車時間が長い場合があるため、車いす上で着脱が可能なタイプを選んでいただきました。(施設職員)
- トイレのウォッシュレットの便座について参考になりました。(ケアマネジャー)
- 福祉用具事業所とのつながりができ、今後もいろいろと相談に乗ってもらえそうです。テーブルについてはなかなか希望に合うものが見つからずまだ用意できていないのですが、他の事業所にも相談してみる予定です。専門家からの評価やアドバイスをいただけたことが家族にとってはとても支えになったようです。(相談支援事業所)
- 支給決定されたので、まだ車いすは手元にありませんが、作製にいたることができました。(相談支援事業所)
- 座っている椅子に座布団(クッション)をおくことで足のしびれが解消した。ご本人(ご利用者)の介助方法を教えていただいたことでご本人の歩行が安定した。(施設職員)
- リハビリテーション専門当時は椅子への着席、立つ動作にもふらつきが見られていたが、相談後足腰も安定し、以前より動作がスムーズになっている。(施設職員)
- リハビリテーション訪問相談後、アドバイスをいただいたプログラムを毎日実施していくことで以前より歩行も安定してきており転もほぼなくなっている。(施設職員)
- 訪問してもらった前より車いす上での姿勢が良くなりました。(施設職員)
- 残存機能を生かすことで本人の希望となり意欲が出てきた。また助言等によりつぎのステップにつながった。(相談支援事業所)
- 訪問介護員によりスライディングボードを使用した移乗動作を行っていたが、リハスタッフさんに正しいボードの使い方や介助者の立ち位置、スライディングするときのコツ(滑らせ方など)を教わることでボードの基本的な使い方を理解できたと思う。(ケアマネジャー)
- 5月にリフターのシート見直し評価をしていただきました。今回は新しいシートを使用して車いす着座の位置やシートの装着方法等を教えていただきました。実際に行いながら不安な点など確認することができてよかったです。(施設職員)
- 歩行の介助者の支援方法について具体的に何をすべきかの方法と他のスタッフに説明することができた。

- ・歩行について専門的な分析をすることができてよかった。
- ・保護者への歩行の介助者の支援方法を説明することができ、感謝された。（施設職員）

#### 7) あなたのお仕事において、リハ専門相談は（平均 3.8/4点）

①必要である	19件
②少し必要である	3件
③それほど必要はない	0件
④全く必要はない	0件

●訪問後、数か月すると徐々に座位による体操に本人が消極的になってしまうため、気持ちを継続するためにも定期的に職員の介入が必要であると感じています。（施設職員）

●住環境のアドバイスを頂けることは本当にありがたいことだと改めて感じました。どういった器具があって住宅改修するならこうしてみるとよいのではないかなど保護者の意向もくみ取りながら考えてくださったので、丁寧かつ専門的な視点からのアドバイスがいただけるのは素晴らしいと思います。また何かあればご相談させていただきたいと思いました。ありがとうございました。（相談支援事業所）

●今後、本人が使用しているスプーンが適切であるか評価していただきたいと思っています。（嚥下機能が低下傾向にあるため）よろしく願いいたします。（施設職員）

●いつもお世話になりありがとうございます。専門的なことを安心して相談できるので助かります。今後、すぎにお世話になる予定です。よろしく願いいたします。（施設職員）

●コロナ禍の中、訪問していただきありがとうございます。利用者様も提案をうけ感謝されています。（ケアマネジャー）

●一緒に訪問していろいろ助言をいただけるので相談支援の立場からするととてもありがたいです。ご本人の生活の質の向上につながるのはもちろんのこと、ご家族の安心感につながる部分もとても大きいと思います。今後ともよろしく願いいたします。（相談支援事業所）

●車いすの作製に関して(地域の)巡回相談も本人の体に合わせる車いすの作製は困難と事前に断られた。そこで往診医と業者とで作製を試みるが頓挫した。相談実績のあるリハビリテーション専門相談は通所事業所まで実際の車いすの姿勢を確認し、最善となる車椅子を本人の希望を優先して見立ててくれた。感謝しております。（相談支援事業所）

●リハビリテーション専門相談後、椅子への着席、立つ動作も安定しています。今後さらなる改善、回復を目標に本人の現状の評価と更なるアドバイスをいただくために、再度来園していただき、相談することが可能でしたらお願いしたいと思います。（施設職員）

●リハビリテーション専門相談後、本人の歩行状態は改善傾向に向かっている印象を受けます。再度本人の評価と更なる状況の改善に向けてアドバイスをいただくために再度訪問（来園）による相談が可能でしたらお願いしたいと思います。（施設職員）

●神奈川リハビリテーションで車いすを作ってもらえたら相談しながら作れるのでいいと思いました。（施設職員）

●専門的な知識がないので相談できると安心、安全につながります。今後もよろしく願いいたします。ありがとうございました。（施設職員）

●1回のみ相談であったが今後定期的に年1回くらい相談できるとよいと思われます。（施設職員）

以上

高次脳機能障害支援普及事業  
(県の委託事業)

## 高次脳機能障害支援普及事業

障害者自立支援法に基づく高次脳機能障害者の支援拠点機関として高次脳機能障害支援普及事業を行っている。

### 1. 拠点機関の支援内容の概要（図1）

地域リハビリテーション支援センターでは、高次脳機能障害相談支援コーディネーター3名、心理士1名を配置し、個別支援、地域支援、研修、地域連携を柱とした事業を実施している。

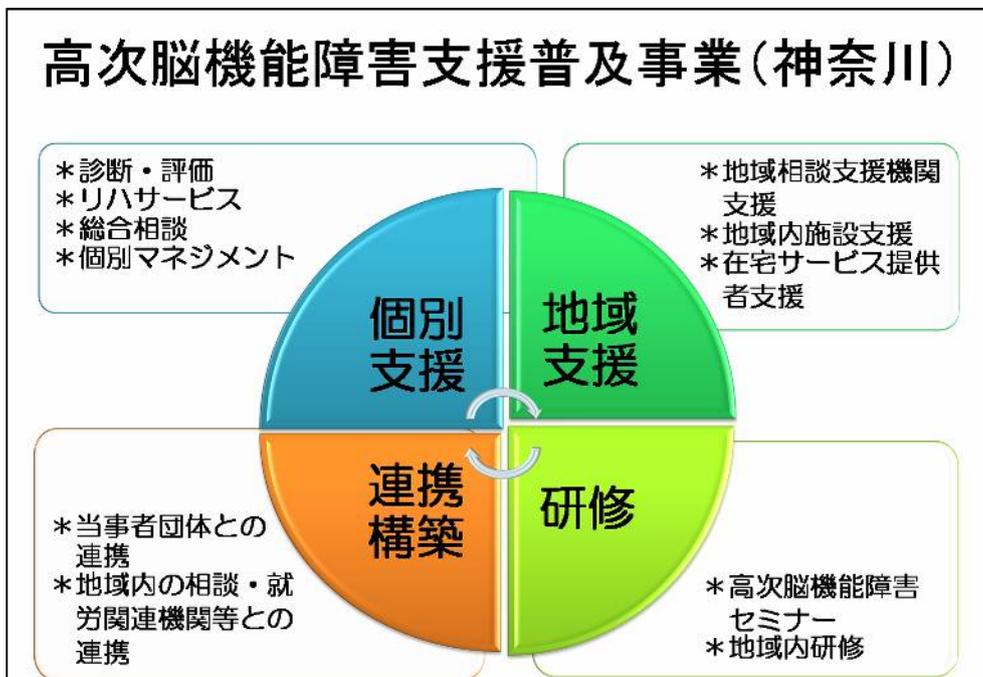


図1 高次脳機能障害支援普及事業

### 2. 神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会（表11）

高次脳機能障害者に関する地域支援ネットワークの充実を図るため、神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会を開催した。

・日時：令和3年2月3日（水）15:00～17:00      ・場所：オンライン開催

表11 委員会の構成員

区 分	所 属
学識経験者	神奈川県保健福祉大学 保健福祉学部社会福祉学科
県の機関	健康医療局保健医療部県立病院課、福祉子どもみらい局福祉部障害福祉課 精神保健福祉センター、総合療育相談センター
国の機関	障害者職業センター
横浜市	横浜市総合リハビリテーションセンター
川崎市	高次脳機能障害地域活動支援センター
相模原市	障害政策課
当事者団体	NPO 法人脳外傷友の会ナナ
職域団体	医療ソーシャルワーカー協会、かながわ障がいケアマネジメント従事者 ネットワーク
サービス提供事業所	愛名やまゆり園
リハセンター	地域リハビリテーション支援センター所長ほか4名
計	17名

### 3. 相談支援

相談件数は、例年と比較して大きく減少した。新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言発令による外出自粛等より交通外傷等が減少した、相談機関に出向く機会が減少したといった可能性はあるが、かえって相談ができないことにより外部からの助言や介入を受ける機会を逸している可能性もあるので、特に単身独居の当事者とは定期的に連絡をとるよう配慮した。新規相談件数は一昨年度並み、相談依頼元では「本人・家族」「医療機関」が全体の7割を占め「地域相談窓口」はほぼ横ばい傾向であった。連絡調整機関については、「相談支援」「障害福祉サービス」に続いて「行政機関」の割合が増加したが、相談件数同様に新型コロナウイルス感染症の影響により連携機関数は例年比で大きく減少した。次年度以降も新型コロナウイルス感染拡大防止等に留意しつつ相談支援、機関連携を行ってきたい。

#### ア 個別相談支援の実績（表12・13・14・15）

表12 相談依頼元の相談件数（重複）

区分	件数	構成比
本人・家族	66	35.8%
医療機関（外来含）	67	36.3%
地域相談窓口	28	15.1%
障害者施設	3	1.6%
市町村	6	3.2%
介護保険関係機関	6	3.2%
家族会	3	1.6%
その他	6	3.2%
合計	185	100.0%

※表12～表15における構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

表13 相談内容別の相談件数（重複）

区分	件数	構成比
就労・教育等	462	11.4%
経済・制度利用	998	24.6%
福祉サービス・社会資源	486	12.0%
家族支援	600	14.8%
リハ訓練（通プロ含）	369	9.1%
医療	296	7.3%
補装具	11	0.3%
福祉機器・用具	0	0.0%
看護・介護方法	1	0.0%
生活課題への対応	815	20.1%
住宅改修	2	0.0%
医療機関紹介	19	0.5%
その他	0	0.0%
合計	4059	100.1%

表14 障害別の相談件数

区分	件数	構成比
成人外傷性脳損傷	69	37.3%
脳卒中	70	37.8%
神経難病	0	0.0%
小児脳損傷	10	5.4%
腎損・頸損	0	0.0%
骨・関節疾患	0	0.0%
不明	1	0.5%
その他（低酸素脳症等）	35	18.9%
合計	185	99.9%

表15 相談に対する保健福祉圏域別の件数

区分	件数	構成比
横浜	67	15.0%
川崎	16	3.6%
相模原	42	9.4%
県央	88	19.8%
横三	35	7.8%
湘南東	65	14.6%
県西	25	5.6%
湘南西	59	13.2%
県外	49	11.0%
不明	0	0.0%
合計	446	100.0%

## イ 巡回相談

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の影響より6月までの巡回相談は中止となり、7月以降は藤沢（家族会）、小田原（家族会）、相模原（当事者・家族会）、伊勢原（家族会）の4か所に月5回参加した。しかし、R3/1/8 緊急事態宣言再発令に伴い、藤沢、小田原、伊勢原での家族会は再度中止となった。なお、大和は通年で中止となった。

毎回参加していただく方に加えて新たに参加される方もおり、当事者・家族同士のピアカウンセリング、身近な地域での相談場所としての認識が広がっている。また、当事者・家族会に合わせて専門相談を実施し、地域の支援者にも同席をしていただくことで、高次脳機能障害者支援のポイントや社会資源の情報共有に繋がり、身近な地域で相談を受けられる体制作りの一助となっていると思われる。

### 1) 巡回相談

- ① 相模原（プラスかわせみ）：第1土曜日 10時から12時（当事者会・家族会）
- ② 藤沢（チャレンジⅡ）：第3水曜日 13時から14時30分家族会
- ③ 小田原（おだわら障がい者総合相談センター）：第1金曜日 14時から15時30分
- ④ 大和（大和市障害者自立支援センター）：第3水曜日 14時から16時
- ⑤ 伊勢原（ふくじゅ）：第2金曜日 13時30分から15時30分
- ⑥ ナナの会 就労を考える会（スペースナナ）：年2回土曜日

## 4. 研修会の開催（表16・17・18）資料3 資料4 資料5

高次脳機能障害への普及啓発を目的としたセミナーを年4回のセミナーを実施している。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により一般者を対象とした「高次脳機能障害セミナー（理解編）」は中止、専門職種を対象とした「高次脳機能障害セミナー（実務編）」、就労支援機関の活用方法理解を目的とした「高次脳機能障害セミナー（就労支援編）」、小児への理解と対応の理解のための「小児後天性脳損傷編」についてはオンラインセミナーとして実施した。

各セミナーの研修受講対象者、内容、実施日、については以下の表16・17のとおりであった。

表16 研修会の受講対象者

研修名	対象者
高次脳機能障害セミナー ～理解編～	限定無し
高次脳機能障害セミナー ～小児編～	医療・福祉・職業・行政等の分野で障害福祉にかかわっている職員等
高次脳機能障害セミナー ～実務編～	医療・福祉・職業・行政等の分野で障害福祉にかかわっている職員等
高次脳機能障害セミナー ～就労支援編～	M S W, P S W, 相談支援従事者、ハローワーク等の職員等

表 17 高次脳機能障害セミナーの受講人数等

No	研修名	開催日		定員 (名)	外部受 講者数	内部受 講者数	総受講 者数	評価/4
1	高次脳機能障害セミナー 小児編	R2/12/6	日	30	17	0	17	3.85
2	高次脳機能障害セミナー 理解編	中止						
3	高次脳機能障害セミナー 実務編	R2/12/19	土	30	34	4	38	3.55
4	高次脳機能障害セミナー 就労支援編	R3/2/6	土	40	26	1	27	4.00
				100	77	5	82	3.80

表 18 高次脳機能障害セミナー講演名、講演者等

研修名	開催日	講演内容	講師名	職種	所属	開催場所
高次脳機能 障害セミナー 小児編	12月6日 (日)	小児脳損傷の理解	吉橋 学	医師	神奈川県立八幡病院	オンライン (Zoom)
		地域生活に向けた評価	林 協子	臨床心理士	神奈川県立八幡病院	
		潜在性を引き出す アプローチ	岩瀬 充	作業療法士	神奈川県立八幡病院	
		病棟生活でのアプローチ	石倉 麻衣	看護師	神奈川県立八幡病院	
		教育面でのアプローチ	神保 辰男	教諭	秦野養護学校	
		地域生活をふまえた アプローチ	尾山 尚子	ソーシャルワ ーカー	神奈川県立八幡病院	
高次脳機能 障害セミナー 実務編	12月19日 (土)	包括的リハビリテーション とは	青木 重陽	医師	神奈川県立八幡病院	オンライン (Zoom)
		包括的リハビリテーション の実際	白川 大平	臨床心理士	神奈川県立八幡病院	
		安心して暮らせる 環境づくり	高木 満	作業療法士	神奈川県立八幡病院	
		運動と高次脳機能障害	有馬 一伸	理学療法士	神奈川県立八幡病院	
		社会参加をめざして	鈴木 才子	職業指導員	神奈川県立八幡病院	
		安心して生活するための 制度活用	瀧澤 学	ソーシャル ワーカー	神奈川県立八幡病院	
高次脳機能 障害セミナー 就労支援編	2月6日 (土)	高次脳機能障害者が 就労を目指すための アセスメントと支援	瀧澤 学	ソーシャル ワーカー	神奈川県立八幡病院	オンライン (Zoom)
		神奈川県立八幡病院 の取り組み	小林 國明	職業指導員	神奈川県立八幡病院	
		事例検討会	瀧澤 学	ソーシャル ワーカー	神奈川県立八幡病院	
			永井 喜子	高次脳機能 障害支援 コーディネ ーター	神奈川県立八幡病院	
			小林 國明	職業指導員	神奈川県立八幡病院	

## 資料3

2020年度 (福)神奈川県総合リハビリテーション事業団研修 開催案内

# 高次脳機能障害セミナー（小児編）

## 安定した地域生活のために

今回のセミナーでは、安定した地域生活を過ごすために、小児脳損傷の基本的な理解や具体的な評価・身体や認知面へのリハビリテーション、家庭や教育場面での対応などのヒントについて、それぞれの専門職の立場から分かり易くお伝えいたします。

### 1. プログラム

12:55	開会あいさつ	
13:00 ~ 13:30	小児脳損傷の理解	神奈川リハビリテーション病院 小児科 吉橋 学
13:30 ~ 14:00	地域生活に向けた評価	神奈川リハビリテーション病院 臨床心理士 林 協子
14:10 ~ 14:40	潜在性を引き出すアプローチ	神奈川リハビリテーション病院 作業療法士 岩瀬 充
14:40 ~ 15:10	病棟生活でのアプローチ	神奈川リハビリテーション病院 看護師 石倉 麻衣
15:20 ~ 15:50	教育場面でのアプローチ	秦野養護学校 かもめ学級 神保 辰男
15:50 ~ 16:20	地域生活をふまえたアプローチ	神奈川リハビリテーション病院 総合相談室 尾山 尚子
質問につきましては、後日 e-mail で受け付けます。		

2. 開催日 2020年12月6日（日）受付 12:30～

3. 会場 インターネットを利用したリモート研修（ZOOM ミーティングルーム）

4. 受講条件 カメラ・マイク付パソコン使用可能な方

5. 定員 30名（応募多数の場合は、選考によって決定させていただきます。）

6. 受講料 1,000円（受講決定後、期日までに指定の口座にお振込みください。  
手数料は各自でのご負担をお願いいたします。）

7. 対象 「脳外傷等による高次脳機能障害児」に関与する保健・医療・福祉・行政関係者等

### 8. 申し込み先

ホームページから：「地域リハ支援センター」を検索 / 携帯サイトから：QRコード読み取り

地域リハ支援センター



※今回はホームページ上でのみの募集となります。

（受講の可否については、受講日の一ヶ月ほど前にこちらからご連絡いたします。）

（問い合わせ先） 地域リハビリテーション支援センター 瀧澤・清水・砂川  
〒243-0121 厚木市七沢516  
TEL046-249-2602, FAX046-249-2601

2020年度

## 高次脳機能障害セミナー(実務編)

～後天性脳損傷者への包括的なリハビリテーション～

高次脳機能障害は、脳損傷後に記憶障害・注意障害・遂行機能障害・社会的行動障害等が生じ、そのことによって生活のしづらさが生じます。症状を改善するためには、障害個々へのアプローチではなく、認知機能・身体機能等に幅広く働きかける「包括的なリハビリテーション」が重要となります。今回のセミナーでは「包括的なリハビリテーション」をテーマとして、各専門職の立場からリハビリテーションやアプローチのヒントについてお話しいたします。

<プログラム>

時 間	内 容	講 師
13:00-13:10	挨拶	
13:10-13:40	包括的なリハビリテーションとは	神奈川リハビリテーション病院 リハビリテーション科 医師 青木 重陽
13:40-14:10	包括的なリハビリテーションの実践	神奈川リハビリテーション病院 心理科 白川 大平
14:20-14:50	安心して暮らせる環境づくり	神奈川リハビリテーション病院 作業療法科 高木 満
14:50-15:20	運動と高次脳機能障害	神奈川リハビリテーション病院 理学療法科 有馬 一伸
15:30-16:00	社会参加をめざして	神奈川リハビリテーション病院 職能科 鈴木才代子
16:00-16:30	安心して生活するための制度活用	神奈川リハビリテーション病院 総合相談室 瀧澤 学

\*プログラムについては、一部変更する場合がございます。

開催日 令和2年12月19日(土)

会場 200Mミーティングルーム

定員 40名

受講料 1,000円

対象 「脳外傷等による高次脳機能障害者」に係る

保健・医療・福祉・行政関係者等

申込方法 インターネット:「地域リハ支援センター」を検索

携帯サイトから:QRコード読み取り

※今回はインターネットのみの申し込みとなります。

受講の可否につきましては、1か月前までにご連絡致します。

(問い合わせ先) (福) 神奈川県総合リハビリテーション事業団

地域リハビリテーション支援センター 瀧澤・砂川

〒243-0121 厚木市七沢516 TEL046-249-2602 FAX046-249-2601



地域リハ支援センター



**資料 5**

2020 年度

**高次脳機能障害セミナー(就労支援編)**

今回の高次脳機能障害セミナー就労支援編では、高次脳機能障害の就労支援へのプロセスや取り組みを分かりやすく解説します。さらに、事例検討会を通して、支援に必要なアセスメントや実践的な就労支援機関との連携・情報共有等のポイントを確認します。

&lt;プログラム&gt;

時 間	内 容	講 師
13:00~	開会挨拶	
13:05~ 13:45	高次脳機能障害者が 就労を目指すための アセスメントと支援	神奈川リハビリテーション病院 総合相談室 瀧澤 学
13:45~ 13:55	休 憩	
13:55~ 14:45	神奈川リハビリテーション病院 職能科の取り組み	神奈川リハビリテーション病院 職能科 小林 國明
14:45~ 14:55	休 憩	
14:55~ 16:20	事例検討会	神奈川リハビリテーション病院 総合相談室 瀧澤 学 永井 喜子 職能科 小林 國明
16:20~ 16:30	まとめ・質疑応答	

\*プログラムについては、一部変更する場合がございます。

開 催 日 令和3年2月6日(土) 13:00~16:30

開催方法 ZOOM ミーティングルーム(オンライン研修)

定 員 40名

受講料 1,000円

対 象 「脳外傷等による高次脳機能障害者」に關与する保健・医療・福祉・行政関係者等

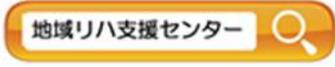
後 援 NPO 法人脳外傷友の会十十

申込方法 インターネット:「地域リハ支援センター」を検索

携帯サイトから:QRコード読み取り

※今回はインターネットのみの申し込みとなります。

受講の可否につきましては、1か月前までにご連絡致します。




(問い合わせ先) (福) 神奈川県総合リハビリテーション事業団

地域リハビリテーション支援センター 瀧澤・砂川

〒243-0121 厚木市七沢516 TEL046-249-2602 FAX046-249-2601

## 5. 神奈川県内の連携構築

### ア 政令指定都市との連携（表 19）

政令指定都市在住者への支援が多いことなど政令指定都市内の中心的機関との連携支援の必要性が高い状況にある。そのため、横浜市総合リハビリテーションセンター、川崎市北部リハビリテーションセンター、川崎市中部リハビリテーションセンター、れいんぼう川崎、更生相談所南部地域支援室、高次脳機能障害地域活動センター及び相模原市障害政策課、かわせみ会と定期的な情報交換会を実施した。

表 19

開催日	開催場所	参加機関
7月28日（火）	オンライン会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市総合リハセンター（コーディネーター）</li> <li>川崎市北部リハセンター（SW）</li> <li>川崎市中部リハセンター（SW、心理、行政）</li> </ul>
1月19日（火）	オンライン会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>れいんぼう川崎（SW）</li> <li>更生相談所南部地域支援室（ST、行政）</li> <li>高次脳機能障害地域活動支援センター（SW）</li> <li>相模原市高齢・障害者福祉課障害福祉班</li> <li>神奈川県総合リハセンター（コーディネーター）</li> <li>神奈川県障害福祉課</li> </ul>

### イ 自立支援協議会との連携（表 20・21）

高次脳機能障害者支援の広域的・専門的相談支援機関として圏域事業調整会議および障害保健福祉圏域自立支援協議会へ参加している。

表 20 令和2年度 障害保健福祉圏域事業調整会議

日時	場所	内容
11月13日	アミュー厚木	各圏域ナビからの事業実施状況報告 県障害福祉課および専門機関より情報提供

表 21 令和2年度 県・障害福祉圏域・地域自立支援協議会

日時	場所	内容
10月30日	県西（オンライン）	圏域ネットワーク形成事業の実施報告
2月17日	湘南西（オンライン）	各市町村自立支援協議会の実施状況
3月22日	県西（オンライン：書面会議）	地域課題の報告及び意見交換等
		※左記以外の圏域自立支援協議会は書面会議で実施された

## ウ 相談支援事業所との連携

高次脳機能障害者が地域で安心して自立した生活を送っていくためには、日々の暮らしのなかで抱えているニーズや課題にきめ細かく対応し、必要に応じて適切な福祉サービス等に結びつけていくための相談支援が重要である。拠点機関である地域リハビリテーション支援センターと、生活の基盤となる地域の機関が密な連携をとることで切れ目のない支援の展開を目指すことができる。

一方、高次脳機能障害者支援は従来の身体、精神、知的による障害者手帳の種類には分類しきれない新たな障害分野ともいわれ、専門的な知識や医療情報とともに相談を受ける側の対人技術も必要とされる面がある。拠点機関が地域の相談支援事業所とともに支援に取り組んでいくことは、専門機関として支援の技術の伝達とともに、支援の地域格差が起らないような取り組みが必要とされているためである。そして、高次脳機能障害者がどこに相談に行っても必要な医療や福祉サービスや制度の活用につながるができるように、支援者側はネットワークをもつことが重要であり、ここに自立支援協議会のもつ意味も大きいといえる。

## エ 就労支援機関との連携

### 1) 神奈川リハ病院内の職業リハビリテーション

神奈川リハビリテーション病院はリハ部門に職業リハを担当する職能科があり、入院・外来者に職業リハを提供している。自立支援法下の機関ではないため、入院中や退院早期の段階から関わり、復職や新規就労などに向けた職業リハの訓練計画を組んでいる。高次脳機能障害者の就労支援は病状や体力の安定、生活の安定、対人技能や就労意欲、作業能力向上など医療リハの段階から、時間経過とともに回復状況に応じた職業的リハビリが必要である。高次脳機能障害者を対象とした院内プログラムの1つに「通院プログラム」がある。障害認識へのアプローチを図りながら社会適応力を高めていくグループワークであり、就労を目指す前段階のリハプログラムとして考えられる。また、職能科には院内の模擬職場、実際の職場を復職に向けたリハビリの場として活用する職場内リハも実施している。

### 2) 就労支援機関

県内には公共職業安定所をはじめ、神奈川障害者職業センター、障害者雇用促進センター、障害者就業・生活支援センター、地域就労援助センター等複数の就労支援機関があり、当神奈川リハセンターとも常に連携、協働の関係にあるといえる。医療リハの段階からジョブコーチ活用や職場定着のプロセスに至るまで、就労支援の流れをそれぞれの専門機関が連携して繋げていくことは重要である。そのために支援機関とのネットワークは欠かせない。

毎年、高次脳機能障害への普及啓発を目的としたセミナーを年4回開催しているが、そのうちの1回は「就労支援編」として各関係機関の参加を得て研修を組んでいる。ただし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により地域就労支援機関の参加は行わなかった。

## オ 当事者団体との連携（表 22）

家族と連携した支援活動としては、協働事業室の運営、啓発等を目的にした地域内研修の共催および相互協力などがある。

協働事業室は、平成14年度に神奈川リハビリテーション病院内に設置され、運営はNPO法人脳外傷友の会ナナ（以下「ナナの会」）の協力を得て、事業が開始された。協働事業室では、ナナの会の家族ボランティアスタッフがピアサポート（火～金）や教材を活用した学習活動（週1回）、当事者の集いなどの支援を実施している。ピアサポートでは、入院・外来者以外の当事者・家族からの相談も寄せられており、相談内容によっては、家族ボランティアスタッフが支援コーディネーターに相談を依頼する連携が行われている。

また、高次脳機能障害者の支援では、家族支援が重要であるため、支援コーディネーター

等が協働事業室のピアサポート事業を支援対象者に紹介する機会が多々ある状況である。協働事業室でピアサポート支援を受けた家族からは、家族ボランティアのサポートが心の支えになっているとの評価を受けている。

表 22 協働事業室利用状況

協働事業室利用者数	本人活動支援
401 名	29 名

## 6. 事例検討会 (表 23)

高次脳機能障害支援では、医療・障害福祉・介護保険・就労支援機関の連携が不可欠である。また実際の支援に際しては、社会制度を活用しつつ、回復過程に沿って社会資源を利用していくといった長期的な支援が要される。そのため、地域内での多職種参加型事例検討会を行うことで、各職種の特性を理解しつつ、顔が見える関係を築いたうえで、各支援者が役割分担をしつつ連携した支援が展開できる支援技術を身につけることを目的として、年 6 回を目途に開催している。令和 2 年度も 6 回の開催を予定していたが、R3/3/19 横須賀市ゆんるりでの事例検討会が新型コロナウイルス感染症の影響で 4/23 へ順延となり、5 回の実施となった。

表 23

No	実施日	開催場所	参加者数	参加者の職種
1	10 月 27 日	チャレンジⅡ	23 名	社会福祉士 7 名
				ケアマネジャー 6 名
				障害福祉施設職員 4 名
				介護福祉士 2 名
				言語聴覚士 1 名
				精神保健福祉士 1 名
				相談支援専門員 1 名
				その他 1 名
2	12 月 1 日	相模原市高次脳機能障害支援 ネットワーク連絡会 (オンライン事例検討会)	31 名	
3	2 月 9 日	相模原市高次脳機能障害支援 ネットワーク連絡会 (オンライン事例検討会)	29 名	
4	2 月 19 日	チャレンジⅡ	34 名	
5	3 月 10 日	オンライン事例検討会	7 名	ソーシャルワーカー 4 名
				相談員 1 名
				臨床心理士 1 名
				理学療法士 1 名

## 7. 高次脳機能障害支援機関ネットワーク連絡会

神奈川県内には、利用する対象者を高次脳機能障害に特化した相談支援事業所・通所機関や、特化はしていないが高次脳機能障害支援を積極的に取り組んでいる事業所がある。現状では、それらの機関に地域内の高次脳機能障害に関する様々な相談が寄せられており、直接支援のみならず、間接支援（事業所支援・支援者支援）の役割も担っている。そのような状況の中、各機関が実践している支援や相談等に関する情報を交換・共有することで、各機関の連携強化やネットワーク化を図り、神奈川県内の高次脳機能障害支援技術の向上に寄与することを目的として、県内の事業所（15 事業所）が参集して年 2 回開催している。

① 第 1 回 高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会

日時：令和 2 年 7 月 16 日（金） 10 時～12 時

場所：Zoom

② 第 2 回 高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会

日時：令和 3 年 2 月 2 日（火） 15 時～17 時

場所：Zoom

## 8. 国との連携

### ア 全国高次脳機能障害相談支援コーディネーター会議(表 24)

高次脳機能障害支援コーディネーターは、その役割は高次脳機能障害者への一貫した支援の実施と地域の実情に即した支援体制の構築、またエビデンス（根拠）の蓄積と分析が求められる。全国の各支援拠点機関に配置されているコーディネーターは勤務形態、人口比による必要人数も様々であり、職種もソーシャルワーカー、臨床心理士、言語療法士や作業療法士等々多領域にわたる。

H21 年度より支援コーディネーター全国会議が開催され、高次脳機能障害者支援に関する知識や制度利用について等々、支援コーディネーターの職務の向上と支援施策の均てん化を図るため研修を実施している。

表 24 全国高次脳機能障害相談支援コーディネーター会議

日時 会場	内容
令和 2 年 7 月 17 日 オンライン会議	1. 開会 2. 開会あいさつ 3. 実践報告会 ①沖縄県の取り組み（沖縄リハビリテーションセンター病院の取り組み） ②新潟県の取り組み 4. シンポジウム ①支援者の立場から（損保協会助成高次脳障害支援多職種コンサルテーション連携事例検討会について：神奈川県リハ：瀧澤学） ②当事者家族の立場から（高次脳機能障害いばらき代表：瀧澤静江、当事者：石崎美香） 5. 閉会あいさつ 6. 閉会

令和3年2月26日 オンライン会議	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 開会あいさつ 国立障害者リハビリテーションセンター高次脳機能障害情報・支援センター長 深津先生</li> <li>3. 実績報告会：感染症の影響と対応            福岡県の取り組みについて 久留米大学病院 高次脳機能障害支援コーディネーター 弥吉江理奈 氏            青森県の取り組みについて 青森県健康福祉部障害福祉課 障害企画・精神保健グループ 主幹 鹿内亮一 氏            質疑応答・意見交換</li> <li>4. 講演1 コミュニケーションの支援 帝京平成大学 健康メデイカル学部 言語聴覚学科 教授 廣實真弓 氏            質疑応答</li> <li>5. 講演2 当事者の家族の立場から 医療法人茜会 昭和病院 病院長 佐柳進 氏            質疑応答</li> <li>6. 閉会あいさつ</li> <li>7. 閉会</li> </ol>
----------------------	---

#### イ 関東甲信越ブロック会議(表 25)

厚生労働科学研究費補助金こころの研究科学研究事業「高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究」は高次脳機能障害支援普及事業と有機的に組み合わせ、地方自治体における支援ネットワーク構築の推進にあたる。全国を10の地域ブロックに区分し、地域ごとにブロック会議を開催することにより全国都道府県に支援拠点機関を設置することを促進し支援体制を普及定着することを目的とする。その全体会議は全国連絡協議会にあわせて開催される。

関東甲信越・東京ブロックは東京、茨城、埼玉、千葉、神奈川、長野、栃木、群馬、新潟、山梨の10都県の支援拠点機関および各県の主管課等が参加している。ブロックの会議を通じて各都県の事業実施状況等を情報交換するとともに地域支援ネットワークの構築に必要な協議を行っている。なお、本会議は事業終了に伴い、H26年度で終了となったが、H27年度以降も各都県の持ち回りにて継続していくこととなった。また、H29年度より、実施要項に「5広域自治体間連携」が追加され、各ブロック会議の予算が位置づけられた。

表 25 関東甲信越ブロック会議

日時 会場	内容
令和2年10月22日 オンライン会議	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 国立リハビリテーションセンター：深津センター長講演</li> <li>3. 事前質問に対する質疑応答               <ol style="list-style-type: none"> <li>①コロナ禍における他機関との連携方法について</li> <li>②「新しい生活様式」を踏まえた研修・普及啓発のあり方について</li> <li>③COVID-19の感染拡大状況による事業計画への影響や対応（変更・縮小・中止など）について</li> <li>④研修会等の今年度の開催状況について</li> <li>⑤高次脳機能障害へ専門的に対応可能な障害福祉サービス事業</li> </ol> </li> </ol>

	<p>所の育成、対応可能施設数の増加に向けた取り組みについて</p> <p>⑥事業所に対する知識や理解の普及について</p> <p>⑦事例検討形式の研修の開催状況について</p> <p>⑧支援拠点機関について</p> <p>⑨小児の高次脳機能障害に関する地域における相談支援体制と普及啓発の取組状況について</p> <p>⑩高次脳機能障害者の運転支援について</p> <p>⑪家族を支えるための家族会支援のあり方について 家族会のサポート方法について</p> <p>⑫災害発生時の支援対応について</p> <p>⑬支援者（家族）の高齢化に伴う対応について</p> <p>⑭配慮のある職場等の把握について</p> <p>※次年度以降の幹事県・開催県について 多数決で、次年度より幹事県と開催県を同一とすることとなる。</p>
--	---

## 9. 県内研修会への講師派遣（表 26）

今年度は神奈川県内から研修講師の依頼が1件あり、高次脳機能障害がある方への支援などについて講演を行った。

表 26 講師を派遣した県内研修会

研修会実施日	研修会名
令和3年1月27日	神奈川障害者職業センター職員研修

## 職員の研究、研修実績

著書

No	著書名	◎著者、共同著者	雑誌・著書名	出版社	年	巻	号	ページ
1	誤嚥物の喀出困難への次の一手 誤嚥性肺炎発症のリスクを下げるための呼吸理学療法	小泉千秋	MEDICAL REHABILITATION	全日本病院出版社	2021		259	38-44
2	ALS 患者へのコミュニケーション支援 及び環境捜査支援の内実	瀧澤学	神奈川県リハビリ テーション事業団 紀要		2020		45	45-50

学会発表

No	演題名	演者	講演(研究、研修)会名	開催地	講演日
1	高次脳機能障害支援における社会的 行動障害への対応	瀧澤学	高次脳機能障害学会	オンライン	11/20-12/7

講演会・研修会・研究会等の講師

No	演題名	演者	講演(研究、研修)会名	開催地	講演日
1	高次脳機能障害支援多職種連携 コンサルテーション事例検討会について	瀧澤学	令和2年度第1回支援 コーディネーター全国会議	オンライン	7月17日
2	高次脳機能障害について	瀧澤学	高次脳機能障害講演会	相模原市	9月19日
3	リハビリテーションの視点からみた住宅改造・ 改修について	小泉千秋	住宅改造・改修セミナー	オンライン	9月19日
4	事例を通じて考える	清水里美	住宅改造・改修セミナー	オンライン	9月19日
5	住宅改修費用の助成について	小川淳	住宅改造・改修セミナー	オンライン	9月19日
6	「介護保険制度」「障害者自立支援制度及び その他の制度」について	小川淳	介護職員初任者研修	横浜市	10月17日
7	食事姿勢の基礎知識と対応	小泉千秋	摂食嚥下障害の リハビリテーションの実際	オンライン	11月3日
8	食事環境調整	清水里美	摂食嚥下障害の リハビリテーションの実際	オンライン	11月3日
9	「子どもから大人まで～高次脳機能障害者の 就労支援 長期の見通しと地域で支える戦略」	瀧澤学	令和2年度高次脳機能障害 講習会・事例検討会	オンライン	10月17日
10	高次脳機能障害者相談支援	瀧澤学	令和2年度神奈川県脳外傷 リハビリテーション講習会	横須賀市	11月23日
11	高次脳機能障害をはじめとした障害のある方 の生活サポートについて	瀧澤学	神奈川県立保健福祉大学 ゲストスピーカー	オンライン	11月17日
12	地域におけるリハビリテーションと住宅改修	小泉千秋	高齢者向け住宅改造施工 業者登録更新講習会	横浜市	12月14日
13	高次脳機能障害者の就労支援上の課題、 支援のポイントについて	瀧澤学	独立行政法人高齢・障害・ 求職者雇用支援機構 神奈川支部 職員研修	オンライン	1月27日

14	車椅子の構造～移乗について	小泉千秋	車椅子シーティングの 理論と実際	オンライン	2月23日
15	車椅子姿勢調整～背張り調整	小泉千秋	車椅子シーティングの 理論と実際	オンライン	2月23日
16	摂食嚥下リハビリテーションにおける 理学療法的重要性	小泉千秋	公益社団法人岐阜県理学 療法士会研修会	オンライン	2月27日

## 令和2年度 事業報告書

編集・発行(令和3年6月)

社会福祉法人 神奈川県総合リハビリテーション事業団

地域リハビリテーション支援センター

(神奈川県リハビリテーション支援センター)

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516

TEL 046-249-2602 fax 046-249-2601